

学校園教育推進サポート事業 報告書

学 番	1809	学校名	中之口東小学校	校長名	小森 康貴	作成者名	石川 慧
学校教育推進サポート担当者名		石川 慧		電 話	025-375-2135		

1 実践のテーマ

「地域資源を活用した教科横断的学習の推進」

2 テーマ設定の理由

これまでも地域資源を活用した学習を進めてきたが、児童の学力向上と地域への愛着をさらに育むため、カリキュラム・マネジメントによる教科横断的な学びを推進する。地域学習は、教科を超えて歴史や文化、産業、環境問題への理解を深め、実生活への応用力を高める貴重な機会である。例えば、国語では地域の歴史や文化を題材に文章理解力を育み、算数では地域資源を用いたデータ解析で数的思考力や問題解決力を養う。こうした取組により学びの一貫性が生まれ、児童の理解や意欲が深まる。さらに、地域の人々との交流やフィールドワークを通じ、協働力や地域課題への責任感を育てる。児童が地域を支える力を身に付け、将来の地域リーダーへと成長していくことを確信している。

3 実践内容

学年ごとに地域の特性を活かし、実際に体験しながら学力向上を図ることを重視する。

低学年では、植物や作物を育てる活動を通じて、自然環境との関わり方を学び、地域に対する視野を広げるとともに、観察力や表現力を育む。植物の成長を観察する中で、日々の変化を記録し、言葉で説明することで国語力を高めるとともに、計測やデータ整理を行うことで算数的な思考力を養う。

3年生では、桃やぶどうを中心とした果樹園での栽培から学ぶ。地域の特産物である果物の栽培過程を体験することで、農業の実際や地域の産業について学び、収穫の喜びとともに地域の特色を理解する。栽培過程の中で、数量管理や時間管理などを行い、算数や生活科で学んだ知識を実生活に生かす力を養う。

4年生は、中ノ口川を中心に、地域の歴史や環境を学ぶ。川沿いの自然を観察し、そこに息づく生物や歴史的背景を学ぶことで、地域の自然資源と歴史の大切さを学び、地域とのつながりを感じることができる。また、調査やデータ収集を通じて、情報を整理し、発表する力を高め、国語力や表現力を養う。

5年生では、米作りを通じて農業について学ぶ。実際に田畑で農作業を体験し、地域の農業の重要性や、食を支える人々の努力を理解する。作業を通じて、数値の管理や生産性を計算する力を養い、算数的な問題解決能力を高めるとともに、地域の農業の課題について考えることで社会的な問題解決力を育む。

6年生は、これまで学んできたことをまとめ、地域の情報を発信する。地域に対する誇りを持ち、地域社会の一員としての自覚を深める活動を行う。学んだ知識やデータを整理し、プレゼンテーションを行うことで、情報を整理・発信する力を養い、具体的に伝える力を高める。また、地域課題を解決するアイデアを考え、主体的に行動する姿勢を育むことで、学びを深める。

#### 4 実践計画

実施時期	実施内容（研修会、先進校視察、授業公開 等）
4月～ 5月	・取組開始に向けた準備 ・地域教育コーディネーターを含めたカリキュラム・マネジメント研修、地域資源の調査
6月～10月	・各学年の教科横断的学習期間 (その間、定期的にかリキュラム・マネジメント研修を設定)
11月～12月	・先進校の研究会に参加
1月～ 2月	・学習発表会

#### 5 成果

低学年では、植物や作物を育てる活動を通じて、自然環境との関わり方を学び、地域に対する視野を広げるとともに、観察力や表現力を育むことができた。

3年生では、桃やぶどうを中心とした地域の特産物である果物の栽培過程を体験することで、農業の実際や地域の産業について学び、収穫の喜びとともに地域の特徴を理解することができた。

4年生は、中ノ口川の川沿いの自然を観察し、そこに息づく生物や歴史的背景を学ぶことで、地域の自然資源と歴史の大切さを学び、地域とのつながりを感じる事ができた。

5年生では、実際に田畑で農作業を体験し、地域の農業の重要性や、食を支える人々の努力を理解することができた。

6年生は、これまで学んできたことをまとめ、地域の情報を発信する活動を通して、地域に対する誇りをもち、地域社会の一員としての自覚を深めることができた。

